TREND (FREQ, PERIOD=値, PSTART=値,
START=初期値, STEP=増分) 系列 ;
あるいは
TREND 系列 [初期値] [増分] ;

機能：

TREND は線形成長トレンド系列を作成します. トレンドはいくつかのオプションを制御することによって繰り返すこともできます.

使用法：

TREND に系列名を続けると単純なタイムトレンド変数が作られ, その名前で保存されます. この変数は現在のサンプルで最初の観測値が 1 で, 毎期 1 だけ増分されます.

系列の最初の値は二番目の引数を含めれば変えることができ, 増分も第三の引数を含めれば変えることができます. 増分を変えたいが最初の値は変えたくない場合, 両方の引数を含める必要があり, そのとき前者を 1.0 とします.

TREND コマンドは SMPL の制御の下で系列を生成しますから, 使いたい全期間をカバーするように注意深く SMPL を指示しないと, 欠測値になったり, サンプルにあるギャップのため変に飛び離れた値になります.

オプション：

FREQ/**NOFREQ** はトレンドを現在の年の四半期あるいは月に基づくものにします. FREQ Q; または FREQ M; がある場合にだけ有効です.

PERIOD= はトレンドがそれ自身繰り返しを始める観測値の数を与えます. 例えば, PERIOD=4 は FREQ Q と同じことになります.

PSTART= は PERIOD を用いたとき (サンプルの最初の観測値に対する) 最初の期を与えます. 既定値は 1 になります. 例えば,

```
FREQ Q; SMPL 70:2 79:4; TREND(FREQ) QT; は
SMPL 2,40; TREND(PERIOD=4,PSTART=2) QT; と同じです.
```

START= はトレンドの初期値を与えます. 既定値は 1 です.

STEP= はトレンドの増分の値を与えます. 既定値は 1 です.

例：

```
FREQ A ; SMPL 46 75 ;
TREND TIME ;
```

この例は TSP プログラム例のモデルで TIME という名前のタイムトレンド変数を生成します. 変数は 1946 年が 1, 1947 年が 2, 1948 年が 3, 等になります.

```
FREQ Q; SMPL 70:2,79:4;
TREND(FREQ) QT;
```

この例は, 2,3,4, 1,2,3,4, 1,2,3,4,... 等という系列 QT を作ります.

```
SMPL 1 400 ;
TREND(PERIOD=5) TIME ;
```

この例は, 5 つづつの観測値で 1,2,3,4,5 という系列を作ります；

これはトレンドが必要なパネルデータには有用でしょう.

```
SMPL 1,400 ;
TREND(PERIOD=5,START=71) YEAR ;
```

この例は, トレンドが 1,2,3,4,5, 1,2,3,4,5, の代わりに 71,72,73,74,75, 71,72,73,74,75, である以外は上と同じです.

アウトプット：

TREND はプリントアウトはありません. 一つの系列が保存されます.